

第7回 ニッケピュアハート エッセー大賞

<高校の部 佳作>

「稲穂のように」

竹村美穂

私には、昔からある一つの夢があります。それは『稲穂のように生きること』です。

こう思い始めたのは、小学校一年生の時でした。クラスで、自分の名前に込められた意味を親に聞いてくる、という宿題があり、私は早速母に、

「美穂の『美』は『美しい』の美でしょう？じゃあ『穂』はどういう意味？」

と尋ねました。すると母の答えが返ってきました。

「穂はね、稲穂の事よ。実れば実るほど頭を垂れる稲穂のような人になって欲しいと思って『穂』という字を入れたの。」

その日から、稲穂のように生きる事は、父と母が私に込めた願いであり、また私の夢でもありました。

たくさんの命に支えられ、許され、守られている私。今まで、感謝は何かしてもらった時にするものだと思っていました。しかし私は、すでにいろいろな物からたくさん与えてもらっている自分に気が付きました。例えば私達が毎朝毎晩当たり前のように食べているご飯です。人間が口に入れているものには全て命があり、米一粒一粒にも、多くの人の労力や自然の恵みによる命があります。そんなたくさんの命をもらっている私達が、毎食ごとに心を込めて『いただきます』『ごちそうさまでした』を言って感謝する。当たり前の事かもしれませんが、そんな小さな日々の積み重ねが大切なのだと思います。

『実るほど 頭を垂れる 稲穂かな』

私の稲にも穂が実るように、これからもどんな人にもどんな物にも感謝の心を常に忘れず、『ありがとう』を大切にしようと思います。